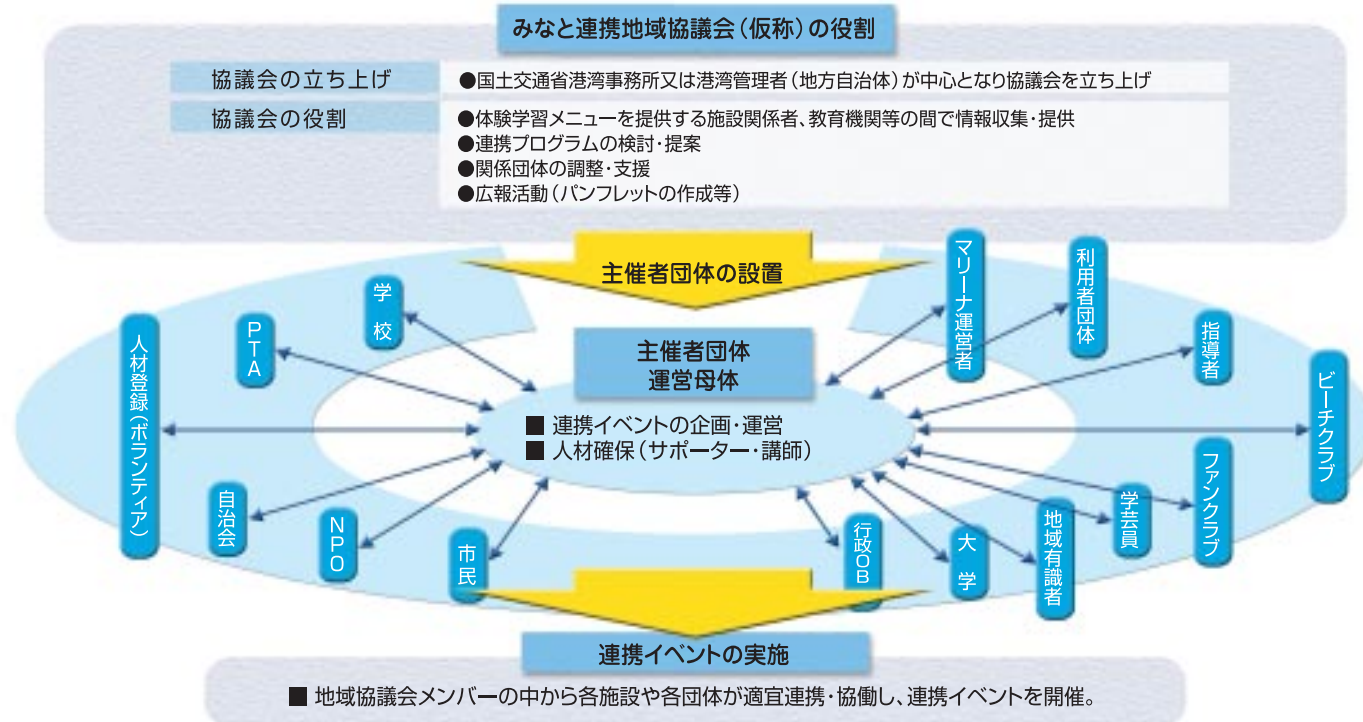


みなと連携地域協議会（仮称）による将来的な展開

- 「海やみなとで体験学習」を推進していくためには、地域の関係者が幅広く連携していくことが重要です。
- 各地域で設立を目指している「みなと連携地域協議会（仮称）」は、「海やみなとで体験学習」を一層促進するため施設間の連携のあり方や体験学習メニューなどについて検討を行うとともに、様々なイベントや活動において広報面で支援するなど連携を持続的に展開するための中心的な役割を担うものです。

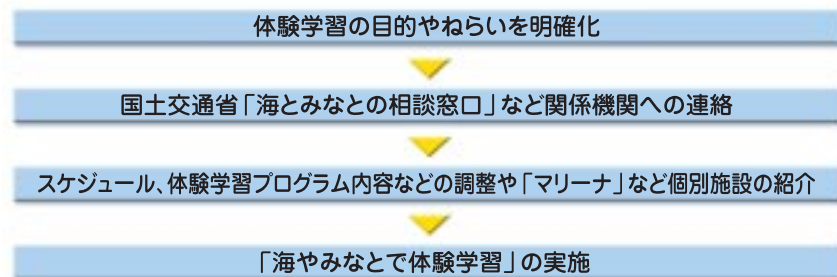
※平成17年度に全国数ヶ所を先行的にモデル地域として指定し、「みなと連携地域協議会（仮称）」を設置する予定です。

協議会の役割と活動までのフロー



「海やみなとで体験学習」を実施するために

「海やみなとで体験学習」は次のようなフローで実施することができます。



『海とみなとの相談窓口』の詳細はこのホームページで
<http://www.mlit.go.jp/kowan/soudan/soudan.html>

お問い合わせ先

- 国土交通省 〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3
 港湾局環境整備計画室 Tel. 03-5253-8685
 港湾局海岸・防災課 Tel. 03-5253-8690
- 文部科学省 〒100-8959 東京都千代田区丸の内 2-5-1
 初等中等教育局児童生徒課 Tel. 03-6734-3298
 スポーツ・青少年局青少年課 Tel. 03-6734-2056

『海とみなとの相談窓口』全国共通フリーダイヤル

大いに良くなれみなと
0120-497-370

受付時間※：9:00～12:00と13:00～17:00（土・日・祝祭日を除く）

※一部の地域を除きます。

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの国土交通省「海とみなとの相談窓口」につながります。

国土交通省

文部科学省

「海やみなとで体験学習」とは

- 「海やみなと」には、物流や産業という“みなと”の基本的な機能を担う施設だけでなく、「マリーナ」、「ビーチ」、「みなとの博物館」などがあり、海のすばらしさや世界との交流や交易の大切さなど多くのことを、体験的に楽しく学んでもらうための施設や人材がそろっています。
- 「海やみなとで体験学習」は“海やみなと”を取りまく「マリーナ」、「ビーチ」、「みなと博物館」などを結びつけることにより、より多くの子供たちが、海の楽しさや厳しさ、まちや社会の過去・現在・未来について、学び考える機会を提供してゆきます。

■「海やみなと」における施設などの概要



「マリーナ」では：熟練した指導者のもと、子供たちが安全にヨット乗船を体験できます。体験乗船前の講習では、マリーナ内の研修施設において海の危険性や安全確保に関する知識を学ぶことができます。また、体験乗船で海水を浴びてしまった場合でも、マリーナにはシャワー設備が完備されているので安心です。このような公共マリーナは、日本全国に66カ所あり、民間マリーナを含めると500カ所以上あります。▶詳細は「(社)日本マリーナ・ビーチ協会」ホームページで <http://www.jmba.or.jp/>

「ビーチ」では：砂浜の上で、ビーチバレーなどのスポーツを体験することにより、広々とした自然の中で体を動かす心地良さを感じることができます。また、ビーチコーミングやビーチ清掃、漂流物の観測などを行い、環境の大切さを学ぶことができます。



「みなとの博物館」では：島国である我が国にとって、世界との交流や交易、その窓口になる“みなと”がいかに私たちの生活に欠かせないものであるかを、展示物や模型などを通じて体験的に学ぶことができます。また、“みなと”を発祥地として発展してきた都市も多く、子供たちが普段生活しているまちの歴史も学ぶことができます。このような「みなとの博物館」が、日本全国に100カ所以上あります。▶詳細は「みなとの博物館ネットワーク・フォーラム」ホームページで <http://www.port-museum.jp/>

国土交通省の港湾事務所や港湾を管理する地方自治体では：「海辺の自然学校」や「みなと見学会」などの企画・開催を通じて、環境教育や総合学習の機会を提供しています。また、物流や産業などの経済活動に広く貢献する“みなと”の施設の見学や、建設中の施設における土木技術の学習などを行うことができます。全国の約60港に国土交通省港湾事務所があり、「海とみなとの相談窓口」が開設されています。▶詳細は「国土交通省港湾局」ホームページで <http://www.mlit.go.jp/kowan/>



■「マリーナ」、「ビーチ」、「みなとの博物館」などにおける提供可能な設備や体験学習メニュー

	設備・講師			体験学習メニュー						
	船	会議室	講師	港の役割や歴史	船の科学や仕組み	土木技術	海辺の自然環境	海の安全	マリンスポーツ	
マリーナ	◎	○	○		○			○	◎	●ヨット・ボート体験乗船 ●魚釣り教室 等
ビーチ							○	○	○	●ビーチスポーツ体験活動 ●ライフセービング教室 ●ビーチ清掃、漂流物観察会 等
みなとの博物館		○	○	◎	◎	○	○			●港や船に関する文献や展示物 等
港湾事務所 港湾管理者	○	◎	◎	◎		◎	○	○	○	●港内・現場見学会 ●出前講座 ●海辺の自然学校 等

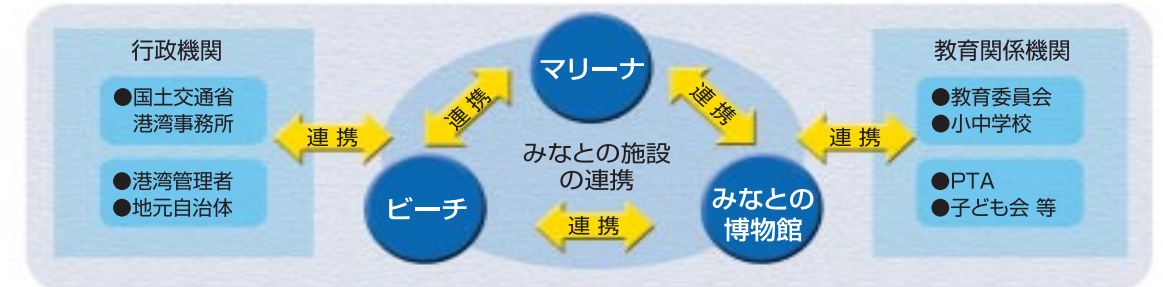
※◎=提供可能／○=一部施設で提供可能

「海やみなとで体験学習」のスキーム

「海やみなとで体験学習」をより効果的に推進するためには、個々の機関が個別に取組むだけではなく、「マリーナ」、「ビーチ」、「みなとの博物館」などや小中学校などの教育機関が一体となって有機的に連携し実施することが重要です。

※連携に関するお問い合わせは「海とみなとの相談窓口」までお願いします。

■「海やみなとで体験学習」のスキームの概念図



■連携による相乗効果

- 多様な視点から学習することが可能になり、総合的に“海やみなと”に対する理解が深まります。
- バラエティに富む魅力的な体験学習プログラムを組むことが可能になります。
- 体験学習は天候に左右されますが、代替メニューの提供により、天候の変化にも対応が可能になります。
- 今まで関心の少なかった方にも情報提供をする機会が増え、“海やみなと”に対する理解が広がります。
- 窓口を一本化することにより、複数の施設をより気軽に利用することが可能になります。

ニーズに合った体験学習プログラムの提供

「海やみなとで体験学習」の取り組みを一層活性化していくために、「マリーナ」、「ビーチ」、「みなとの博物館」などの特色を最大限に生かしつつ、各施設が提供するメニューを効果的に組み合わせるなど、ニーズに合った魅力的な体験学習プログラムを作成する必要があります。



■体験学習プログラムの例

●半日コース (マリーナとビーチの連携プログラムの例)

■ヨット・ボート体験乗船とひがた観察

08:00	● 現地集合・着替え
09:00	● 開校式・オリエンテーション
10:00	● ヨット・ボート体験乗船
11:00	● ひがた観察
12:00	● 終了式 (アンケート記入)

●1日コース (国土交通省港湾事務所、ビーチ、みなとの博物館の連携プログラムの例)

- (午前の部) みなと見学
- (午後の部) ビーチ清掃と漂着物分類調査 又は みなとの博物館

08:00	● 現地集合・開校式・オリエンテーション
09:00	● コンテナターミナル見学
10:00	● 船上よりみなと全体の見学
11:00	晴天の場合 雨天の場合
12:00	● 昼食→ビーチへ移動 ● 昼食→みなとの博物館へ移動
13:00	● オリエンテーション ● みなとの博物館
14:00	● ビーチ清掃 (港のしくみ・役割・産業)
15:00	● 漂着物分類調査
16:00	● 終了式 (アンケート記入) ● 終了式 (アンケート記入)